

# 令和5年度 文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業

## 日本語教師【中堅】に対する研修報告

実施機関名	公益社団法人 日本語教育学会
事業名	日本語教育学会の人材，知財，ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム（略称：JCN研修）
研修実施地域	全ブロック（オンライン）
事業実施期間	令和5年5月～令和6年3月
研修受講者数 及び修了者数	中堅研修プログラム：受講者60名、修了者54名 講師育成プログラム：受講者9名、修了者9名

# ■ 研修報告の構成

## 1. 事業概要

### 1.1 目的

### 1.2 実施体制

## 2. 中堅研修プログラム

### 2.1 目的・ねらい・特徴—求められる資質・能力と研修における教育内容の関係—

### 2.2 研修の概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

#### 2.2.1 実施時期・内容・提出物／2.2.2 各期の内容／2.2.3 講義動画の内容および担当講師

#### 2.2.4 同期型研修の担当講師／2.2.5 募集と選考／2.2.6 受講者・修了者の情報／2.2.7 修了要件と評価方法／2.2.8 研修の様子／2.2.9 受講生からの評価

## 3. 講師育成プログラム

### 3.1 目的・特徴

### 3.2 研修の概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

#### 3.2.1 研修の構成／3.2.2 実施時期・内容・提出物／3.2.3 同期型研修の担当講師／3.2.4 募集と選考

#### 3.2.5 受講者・修了者の情報／3.2.6 修了要件と評価方法／3.2.7 研修の様子／3.2.8 参加者が研修終了時に提出した研修企画案（題目一覧）／3.2.9 受講生からの評価

## 4. 基盤整備

## 5. 事業評価

## 6. 成果と課題

### 6.1 成果

### 6.2 課題

# 1. 事業概要

## 1.1 目的

本事業（「日本語教育学会の人材，知財，ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム」）は，本学会が2018-2020年度（開発事業），2021-2022年度（普及事業）に受託した同プログラムの成果を踏まえ，次の5つを目的として実施した。

【目的①】日本語教師がこれまでに自らが行ってきた日本語教育実践を振り返り，俯瞰し，それらを理論的・メタ的に位置づける。この活動を通じて，これからの日本語教育の如何なる多様化にも対応し，日本語学習環境を整えることができる日本語教師【中堅】（以下「中堅日本語教師」）の育成を目指す。

【目的②】普及事業における2カ年の実績を踏まえ，「中堅日本語教師」を育成する講師のための研修プログラムを見直し，改善する。

【目的③】上記目的②で改善されたプログラムに基づき，「中堅日本語教師」を育成する研修を企画・運営したり，講師を務めたりすることができる人材（「中堅日本語教師」研修講師）の育成を目指す。

【目的④】受講生および修了生による研修成果の発表などの活動を集約し，公開するためのプラットフォームを構築する。

【目的⑤】受講年度を越えて，修了生が研修修了後も自律的，持続的に活動を続けていくためのネットワークを構築するための基盤を整備する（＝【ネットワークの基盤整備】（その他関連する取り組み）の実施）。

# 1. 事業概要

## 1.2 実施体制

事業実施にあたり、次の5つの委員会、および、事務体制を整えた。

1. 運営委員会：事業全体の方針、体制などを決定する。
2. 中堅研修プログラム委員会：【中堅研修プログラム】の具体的な実施方法を検討するとともに、それぞれのプログラムを実施・運営する。（目的①）
3. 講師育成プログラム委員会：普及事業における2カ年の実績を踏まえ「中堅日本語教師」を育成する講師のための研修プログラムを見直し、改善する（目的②）とともに、【講師育成プログラム】を実施・運営する。（目的③）
4. 基盤整備委員会：受講生および修了生の成果発表の場となるプラットフォームを構築する（目的④）とともに、修了生のためのネットワークを構築するための基盤を整備する（目的⑤）。
5. 事業評価委員会：受講生に対する事前、事後アンケートを行うとともに、外部有識者から評価を受ける。

事務体制としては、公益社団法人日本語教育学会事務局に事業実施統括員を置き、統括を行う。事業実施統括員は文化庁、及び関連諸機関との渉外業務を行うとともに、各委員会の開催・運営、および、2つの研修プログラムの事業経費管理等を行う。また事業実施統括員の下で、各委員会との調整業務を行う事業補佐員を配置する。

# 1. 事業概要

実施体制を下図に示す。(◎委員長, ○副委員長)

日本語教育学会事務局  
事業実施統括員  
事務補佐員

運営委員会：◎小林 ミナ, ○小河原 義朗, 中島 祥子, 嶋津 百代, 御館 久里恵, 北出 慶子, 義永 美央子, 金子 史朗  
基盤整備委員会：◎小河原 義朗, ○中俣 尚己, 安達 万里江, 小林 ミナ, 建石 始, 安原 凜

研修担当：

班長：中島 祥子  
副班長：北出 慶子  
チーム：

**1班**  
A 北出 慶子  
B 安原 凜  
C 星 摩美  
D 柳田 直美/  
ツオイ エカテリーナ

嶋津 百代  
義永 美央子

**2班**

E 義永 美央子/  
嶋津 百代  
F 犬飼 英男  
G 吉川 達  
H 加藤 林太郎

御館 久里恵  
金子 史朗

**3班**

I 金子 史朗/  
御館 久里恵  
J 嶋 ちはる/  
布尾 勝一郎  
k 平山 允子  
L 永田 良太  
M 黒崎 誠

中堅研修プログラム委員会：◎中島 祥子, ○嶋津 百代, ○御館 久里恵, 上記全講師

講師育成プログラム委員会：◎義永 美央子, ○北出 慶子, ○金子 史朗, 御館 久里恵, 嶋津 百代, 中島 祥子

事業評価委員会：◎小林 ミナ, ○小河原 義朗, 阿部 真由美, 石黒 広昭, 栗田 加代子, 戸田 佐和, 野田 尚史

## 2. 中堅研修プログラム

2.1 目的・ねらい・特徴—求められる資質・能力と研修における教育内容の関係—  
本研修は次の特徴を持つ。

### (1) 研修テーマ

文化審議会国語分科会（2019）<sup>注1</sup>の「日本語教師【中堅】に求められる資質・能力」（p.31），および，「日本語教師【中堅】研修における教育内容」（p.58）を踏まえ，本研修では「つなげる・つながることを通じた実践の改善と教師の成長」を研修テーマとし，研修生が各現場から見出した具体的な課題を以下のような視点から整理，検討する。

- |                   |                         |                                |
|-------------------|-------------------------|--------------------------------|
| (1)日本の在留外国人施策・制度  | (2)関係府省庁による日本語教育施策      | (3)日本語の試験                      |
| (4)国内外の多様な日本語教育事情 | (5)学習者の社会参加             | (6)異文化間トランス                    |
| (7)言語学習・教育の情意的側面  | (8)日本語教育プログラム及び教育環境デザイン | (9)目的・対象別日本語教育法                |
| (10)評価法           | (11)異領域との協働             | (12)日本語教育プログラムにおける ICT の活用・著作権 |
| (13)マネジメント能力      | (14)事務・管理能力             | (15)人材育成能力                     |
| (16)ネットワークング力     | (17)その他                 |                                |

### (2) チームで研修活動を行う

本研修では，他者とのつながりと協働を重視する。そのために，研修生は応募時に提出した自らの課題を一人で考えるとともに，課題に基づいていくつかのチームに分かれ，チームとしても研修活動を行う。一人で考え，解決するのではなく，組織や専門分野をこえた様々なリソースを活用し，つながることの重要性とダイナミズムを経験する。

注1：文化審議会国語分科会（2019）『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』

## 2. 中堅研修プログラム

### (3) 各自の課題を自ら設定し、自ら解決する

研修生は、各自の課題や解決方法を誰かにおしえてもらうのではなく、自ら解決にあたる。そのために、現場を分析して理解を深め、他者とのつながりの中で解決の糸口を自ら発見し課題に取り組む。その過程を通じて、日本語教師としての成長と専門性のさらなる充実を目指す。

### (4) 日本語教育学会のリソースを活用する

研修生は、各チームの課題を解決するために、日本語教育学会の様々な人材（Jinzai）、知財（Chizai）、ネットワーク（Network）を活用して必要な情報を収集、発信、共有する。

### (5) 6期に分けて実施

2023年7月から2024年1月までの約7ヶ月の研修期間を、6期に区分して実施する。各期は、「講義」と「演習」から構成され、それぞれにZoomによるスクーリング（同期型研修）を行う。さらに、研修全体を通してLMSとチャットツールを利用した課題の遂行と意見交換を並行して行う。その他、1月に修了レポートの提出が求められる。

### (6) LMSとチャットツールを利用した非同期型研修

全研修期間を通じ、LMSとチャットツールを利用して、チームでの意見交換、情報収集、成果報告などを行う（非同期型研修）。チームにはそれぞれ研修担当の講師とメンターが付き添い、伴走する。必要に応じて文献や参考資料などを紹介し、意見交換を行う。研修担当者を一つのリソースとしてどのように活かして課題解決につなげるか、人的リソースの有効的な活用を体験する。具体的には、講義と演習の合間にLMSとチャットツールを利用して次のことを行う。

- ① 各種課題の提出
- ② チームによる進捗状況報告
- ③ 課題解決方法の検討と決定
- ④ 改善案の検討
- ⑤ 成果発表会に関する協力・連絡
- ⑥ その他、個別のネットワーキング

## 2. 中堅研修プログラム

### 2.2 研修の概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

#### 2.2.1 実施時期・内容・提出物

期	1期	2期	3期	4期	5期	6期
時期	7月	8月	9月	10月	11月	12～1月
内容	オリエンテーション 講義1	講義2 演習1	講義3 演習2	講義4 演習3	講義5 演習4	成果発表会 (演習5)
提出物	①振り返りシート ②自己評価票	①講義・演習の課題 ②振り返りシート	①講義・演習の課題 ②振り返りシート	①講義・演習の課題 ②振り返りシート ③自己評価票	①講義・演習の課題 ②振り返りシート	①研修成果のまとめ ②修了レポート ③自己評価票

## 2. 中堅研修プログラム

### 2.2.2 各期の内容

各期は原則として【講義】と【演習】の組み合わせで構成。

総単位数は 40 単位。【講義】 20 単位, 【演習】 20 単位 (1 単位 45 分)。

【講義】と【演習】の内容と単位数は以下の通り。

- 【講義】 (4単位):**講義(講義動画/ライブ講義)の視聴(1単位)+課題の遂行(1単位)+スクーリング(2単位)
- ・ 講義では, 動画教材による講義をスクーリング前に各自で視聴(講義動画), あるいは, 同期型研修でのライブ講義に参加する。
  - ・ 講義視聴後, スクーリングの講師が指定する課題を遂行する。
  - ・ 課題提出後, Zoom によるスクーリングで課題の振り返りや発展的学習を行う。
- 【演習】 (4単位):**事前課題の遂行(1単位)+スクーリング(2単位)+事後課題の遂行(1単位)
- ・ スクーリングの前に担当講師が指定する事前課題を遂行する。
  - ・ Zoom によるスクーリングで課題の共有や議論などを行い, 自身の研修課題の解決を図る。
  - ・ スクーリングの議論を踏まえてチーム内での振り返りや事後課題を遂行する。

(ただし, 1期は講義1(ライブ講義)の聴講1単位+スクーリング3単位の計4単位, 6期は成果発表会への参加によって 4 単位となる)

## 2. 中堅研修プログラムの概要

### 2.2.3 講義動画の内容および担当講師

	科目	テーマ	担当講師	動画 本数
事前	研修について(1)~(3)	①コースガイダンス	中島祥子	1
		②研究倫理と著作権	小林ミナ	1
		③文献検索	北出慶子	1
講義1	日本語教育の参照枠について★	日本語教育の参照枠について	松井孝浩 (文化庁国語課)	ライブ 講義
講義2	日本語教育と「熟達」(1)~(3)	日本語教師と「熟達」	横溝紳一郎	3
講義3	「実践を記述する」ということ(1)~(3)	①「実践」を観察する	石黒広昭	1
		②「実践」を記述する	石黒広昭	1
		③「実践」を評価する	石黒広昭	1
講義4	課題解決のアプローチ(1)~(3)	問題を解決する	石黒広昭	3
講義5	「実践」を振り返る／異なる実践をつなげる・つながる	実践を振り返る	横溝紳一郎	3

(★前年度までの「知識面に関する内容が少ない」という課題を改善)

## 2. 中堅研修プログラムの概要

### 2.2.4 同期型研修の担当講師

回数	開講日時	時間	科目名	講師	講師補助者
1	7月29日(土) 13:00~16:30	4	スクーリング1	1班:中島祥子 2班:嶋津百代 3班:御館久里恵	1班:北出慶子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:義永美央子, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:金子史朗, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
2	8月19日(土) 13:00~16:30	4	スクーリング2	1班:中島祥子 2班:嶋津百代 3班:御館久里恵	1班:北出慶子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:義永美央子, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:金子史朗, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
3	9月16日(土) 13:00~16:30	4	スクーリング3	1班:中島祥子 2班:嶋津百代 3班:御館久里恵	1班:北出慶子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:義永美央子, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:金子史朗, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
4	10月21日(土) 13:00~16:30	4	スクーリング4	1班:中島祥子 2班:嶋津百代 3班:御館久里恵	1班:北出慶子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:義永美央子, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:金子史朗, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
5	11月18日(土) 13:00~16:30	4	スクーリング5	1班:中島祥子 2班:嶋津百代 3班:御館久里恵	1班:北出慶子, 安原凜, 星摩美, ツオイ・エカテリーナ 2班:義永美央子, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:金子史朗, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
6	12月16日(土) 13:00~16:30	4	成果発表会	1班:中島祥子 2班:嶋津百代 3班:御館久里恵	1班:北出慶子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:義永美央子, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:金子史朗, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠

## 2. 中堅研修プログラムの概要

### 2.2.5 募集・選考・受講者の情報

募集：2023年5月15日～5月31日（火）23:59(JST)（追加募集：～6月19日（月）23:59(JST)）  
日本語教育学会HPの他，日本語教育関係の学会，研究会MLなどで周知

選考：応募資格および提出された事前課題によって選考

応募資格：中堅日本語教師として十分な経験を有する者（目安として3年以上の日本語教育歴がある者）

事前課題：この研修で取り組みたい，ご自身の日々の教育活動・教育実践から生まれた課題について，以下の1)～4)の質問に答える形で作成する。

- 1) 取り組みたい課題は，あなたのこれまでの教育活動・教育実践とどのように関わっていますか。300～400字程度で説明してください。
- 2) その課題を解決するために，これまでどのようなことに取り組みましたか。200字程度で説明してください。
- 3) その課題を解決するために，何が必要だと考えますか。200字程度で説明してください。
- 4) その課題を解決するために，この研修に期待することは何ですか。200字程度で説明してください。

応募者：64名

受講者：60名（国内47名，海外13名。20代2名，30代12名，40代20名，50代15名，60代8名）

## 2. 中堅研修プログラム

### 2.2.6 修了要件と評価方法、修了者数

修了要件：出席率・課題提出率・課題達成率 いずれも80%以上（受講者60名中、修了者54名）

修了レポートの評価の観点:下記の項目についてルーブリックを作成し、評価。

観点	項目	説明
課題解決力	テーマ・問いの明確さ	それぞれの現場や実践から見て適切なテーマ・問いが設定されているか
	内容や方法の妥当性	問いに対して十分な検討がなされ、課題解決に適切な方法が選択されているか
	結果・結論の明確さ	課題に関する深い考察に基づき、明確な主張や結論が示されているか
	研修内容と自分の課題の関連付けの明確さ	研修で扱った内容や班・チームでの議論と自らの課題がどのように関連するかが明確に示されているか
専門知識	先行研究・資料	課題に応じた必要な資料が適切に引用されているか
	知識や情報	自らの実践や課題解決に関する情報を適切に記述しているか
	文章の構成・読みやすさ	全体の論理構成が明確で、章(節)間、段落間、段落内の情報や主張が整理されているか
	読みやすさ・書式の適切さ	書式など(フォーマット、分量、参考文献リストなど)が整い、統一されているか

## 2. 中堅研修プログラム

### 2.2.7 研修の様子

日本語教育学会の  
人材, 知財, ネットワークを活かした  
中堅日本語教師のための研修プログラム  
(略称: JCN 研修)  
【中堅研修コース】

【研修】中堅研修のみならず  
【WisdomBaseへの事前課題の提出について】  
事前課題が登録されましたが、WisdomBaseの「事前課題」の窓口、応募時の事前課題がご提出されているでしょうか。  
事前課題の内容を後ほど再確認します。

締切の日でしたが、本日22日(木)23:59までは提出可能です。  
【研修になる「事前課題」の窓口が例えて、提出できなくなります。今後の研修でも同様ですので、お気をください】

提出された方はファイル名の欄に受講生番号を入れ、ファイル名を修正の上でご提出をお願いします。  
WisdomBaseへの課題の提出も遅延していますので、ぜひ一度ご確認ください。

締切の前であれば、ファイルの再提出は可能ですので、もしファイルを変更したい場合は再提出をお願いします。  
なお、すでに提出されたものは再提出できません。  
お手数ですが、どうぞよろしくお願いたします。🙏

(2) 応募時の「事前課題」を提出する  
本研修の応募時に提出した「事前課題」のPDFファイルを、WisdomBaseの「事前課題」からアップしてください。

ファイル名は、ファイル名などは以下のようにお願いします。ファイル名の「受講生番号」は「資料1」に記載されています。なお、今後も各種課題のファイルをWisdomBaseの共有ドライブに提出する際には、「受講生番号\_氏名」を必ずファイル名の欄につけるようにお願いします。なお、共有ドライブは本研修の受講生・メンター専用で共有されます。あらかじめご了承ください。

文化庁  
公益社団法人 日本語教育学会  
令和5年度日本語教師の養成及び現職日本語教師の研修事業  
日本語教師【中堅】研修

「日本語教育の参照枠」について

Japanese Language Education

令和5年7月  
文化庁国語課

2023JCN研修 成果発表会 各チームへの質問

各チームへの質問がコメントを自由に付けてください。最終に自分の名前を乗せてから入力をお願いします。公開期間：2023年12月1日(水)～2024年1月14日(日)

1期 Aチームへの質問	1期 Bチームへの質問	1期 Cチームへの質問	1期 Dチームへの質問
<p>質問者: さん</p> <p>こんにちは。ご質問です。現地の日本語教師のコミュニティの役割がどこにあるか、とても参考になりました。また、現地の日本語教師との交流、またはOHAのような新しい成果ですね。</p> <p>1999年以降英語化された「新編文化書による日本語教育の発展」が「国際交流基金の発展」によって、現地の教師の日本語力や態度、発音などが十分だと感じました。これらの研修会や交流は、現地にどのような内容や目的、期間で行われていたのでしょうか。</p> <p>また、インドネシアの先生が感嘆するきっかけとなった「執筆家らの働きかけ」という点は、どのようなものだったのでしょうか。</p>	<p>質問者: さん</p> <p>6月生田です。リアクションをつけるという手立てを思いつかれている実地研修がとても興味深くて良かったです。【質問事項】リアクションをつけるという手立てに対する手立てについて、具体的な方法についてありましたらお聞かせいただけます。夜更研修(海外等)のやり取り、何かありそうな気がするので。</p> <p>質問者: さん</p> <p>ご質問、ありがとうございます！リアクションをつけるという手立て(執筆家の働きかけ)への手立てについてですが、リアクションは文章執筆のスキルアップで、「執筆家」であること、アクションを促すこと、これらがポイントだと思います。ただし、vikiなどのツールも活用されています。</p>	<p>質問者: Cチームのみなさま</p> <p>……です。アサーション・トレーニングについてとても興味深く拝読させていただきました。【質問事項】効果的なアサーション・トレーニングの研修方法を1つ知りたいです。</p> <p>質問者: 鈴木さん</p> <p>……です。近況や成果への感謝、とても興味深く拝読させていただきました。【質問事項】Q&amp;Aの4番を数回入れた研修がオンラインについて具体例を1つ教えてほしい。</p>	<p>質問者: さん</p> <p>……です。アサーション・トレーニングについてとても興味深く拝読させていただきました。【質問事項】効果的なアサーション・トレーニングの研修方法を1つ知りたいです。</p> <p>質問者: Y&amp;Mサービス</p> <p>……です。近況や成果への感謝、とても興味深く拝読させていただきました。【質問事項】Q&amp;Aの4番を数回入れた研修がオンラインについて具体例を1つ教えてほしい。</p>

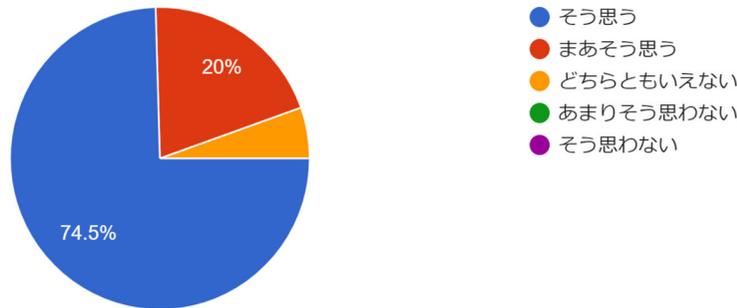
## 2. 中堅研修プログラム

### 2.2.8 受講生からの評価

「修了後のアンケート」からは、受講者の94.5%が「参加してよかった」（「そう思う」「まあまあそう思う」と回答しており、肯定的評価が高かった。また、「非同期型研修」における講義動画の視聴（講義の課題を含む）やZoomによる「同期型研修」についても9割以上の受講生から肯定的な評価を得られた。

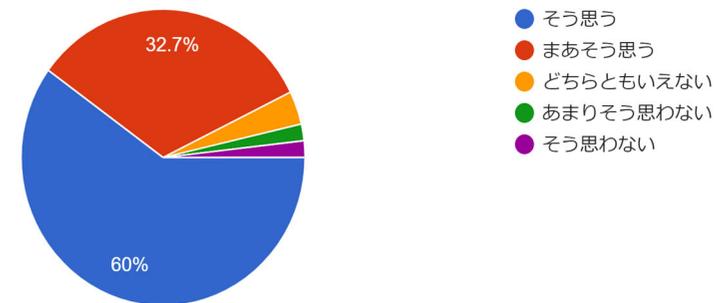
(1)全体としてこの研修に参加してよかったと思いますか。

55件の回答



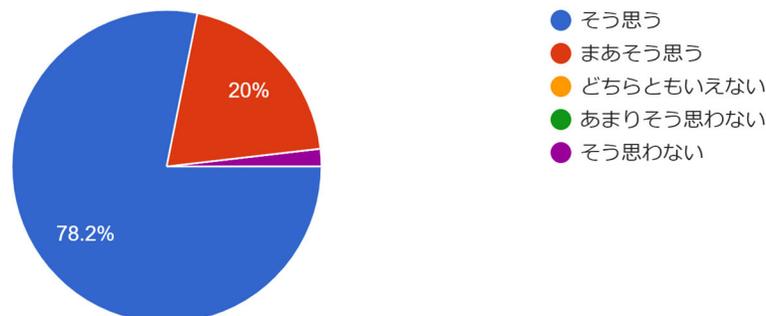
(2)講義動画の視聴(講義の課題を含む)による「非同期型研修」は、上記研修の目的を達成する上で効果的だと思いますか。

55件の回答



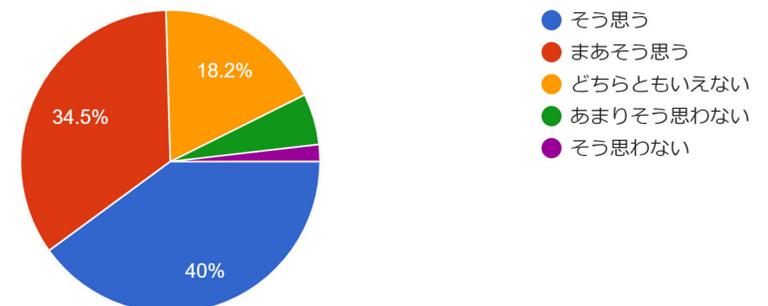
(3)Zoomによる「同期型研修」は、上記研修の目的を達成する上で、効果的だと思いますか。

55件の回答



(4)本研修では、「非同期型研修」の際に、LINE WORKSを利用しましたが、上記研修の目的を達成する上で、効果的だと思いますか。

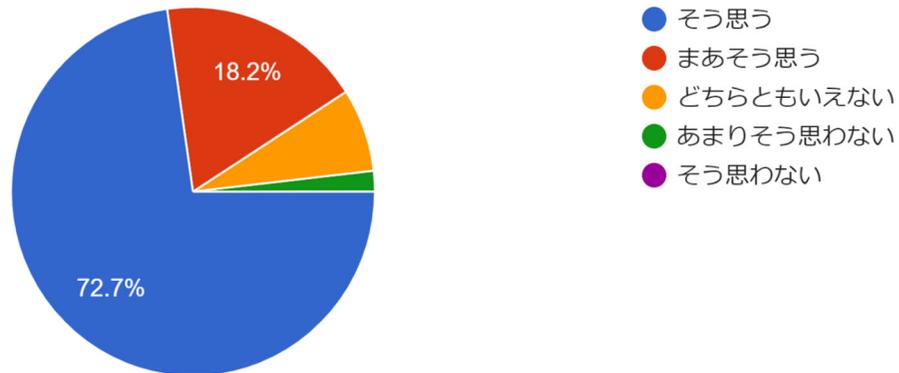
55件の回答



## 2. 中堅研修プログラム

(5)この研修はいわゆる「座学」ではなく、研修参加者が自分の課題を持ち寄って解決していく形で行われます。この形態は「中堅」としての資質・能力の開発において効果的だと思いますか。

55件の回答

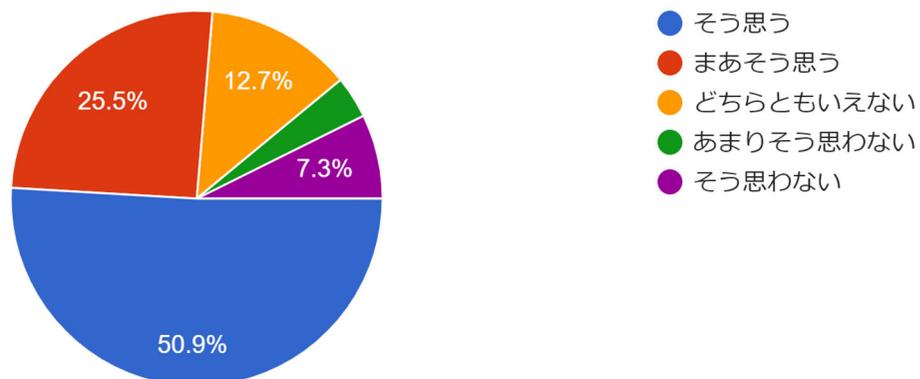


「課題持ち寄り型研修」についても、「中堅」としての資質・能力の開発において効果的だと考える受講生が90.9%と肯定的評価が高い。

また、本研修を他の中堅教師に勧めたいと考える受講生も7割を超えている。

(6)もし同じ研修の機会があったら、他の中堅教師に勧めたいですか。

55件の回答



## 2. 中堅研修プログラム

「終了後アンケート」の自由記述欄からの抜粋

- ・レポートやスクーリング、チームとのコミュニケーションを通して、この半年間短い間ですがこれまでの実践を何度も振り返る機会、それを言語化する機会をもらい、大変な貴重な経験でした。何度も振り返るうちに、それを俯瞰して見るできるようになったと思います。
- ・この研修では、実践を記録し、自身の取り組みを形にすることで、客観的に振り返る機会をいただいた。また、自分自身ではなかなか深いところまで自身を振り返ることができていなかったが、チームでのやり取りの中で漠然とした思いを言語化することにより思考の整理ができたり、実践を他者と比較することで私自身が真に目指す解決の方向などが見えるようになった。
- ・問題解決力を養うのに効果的だと感じた。参加するまでは解決方法を学べるものと思っていたが、実際の研修では、どのような課題が現れても対応できるような気持ちの持ち方や、解決に向けた実践を自分自身で考え、取り組む方法を学ぶことができた。単純に解決方法を学ぶよりも、さまざまな課題のパターンに対応できる力が大きいと思う。
- ・研修に参加する人は課題を持っていますが、その課題を他人と共有し、話し合うことに研修の意義があるのではないかと思います。つまり、課題を共有することによって、課題が明確化し、新たな取り組みができるということです。研修仲間から助言がいただければそれに越したことはありませんが、まずは課題を共有できる場面があるということが、中堅で毎日忙しく授業をこなしていて、勉強会や相談などができにくい日本語教師にとって必要な場面ではないかと思いました。
- ・非常によく練られたプログラムだと感じました。はじめは何が求められていたのか分からなかったのですが、今となっては、なぜこのようにプログラムがデザインされていたのかがよくわかります。/中堅教師にどのような素質が求められているのか、プログラムを通じて理解することができました。今まで、一人で日本語教師として成長しようとしてきましたが、チームで取り組むことの大切さを学びました。チームメンバーにも恵まれたと思います。とても楽しい時間を過ごしました。
- ・最初は どうしてこんなことをさせるのかなとも思いつつも、最後にはこれを気付かせたいためのデザインなんだなと気付くことができた。成長したいと考えている前向きなチームメンバーにも恵まれ、しがらみなくいろいろなことについて話し合いができ、自分を見つめなおすことができたことがとてもよかったです。
- ・この研修に参加して本当に良かったと心から思います。海外在住なので毎回深夜3時半に起きて早朝4時から7時まで出席するという、家族にも少しだけ迷惑をかけてしまったのですが、その苦勞に値するほど実りの多い研修でした。
- ・知識の押し付けの研修は身に着かないが、深いところで気づきを促すようなJCNのような研修だったら一生身につけることができるので、また、そう思う同僚を増やしたい。

## 3. 講師育成プログラム

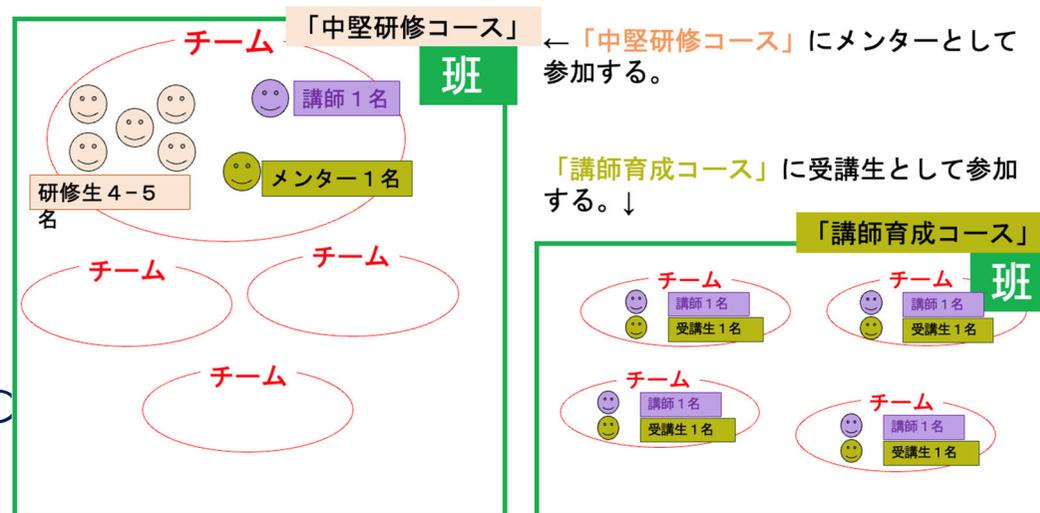
### 3.1 目的と特徴

#### 【講師育成プログラムの目的】

- ・平成31年報告で示された「日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力」および「研修における教育内容」を踏まえた内容を提供する。それによって、「中堅日本語教師」を育成する研修を企画し、講師として研修を運営・実施できる人材を育成する。

#### 【講師育成プログラムの特徴】

- ・ **OJT型研修**：「中堅研修コース」のチームの一つにメンターとして参加し、担当講師の助言を得ながら、中堅研修生が自らの現場の課題について議論する学習の場をつくる。また、その経緯と成果を「講師育成コース」のメンターセッション（MS）で考察し、中堅日本語教師に求められる資質・能力やその育成方法を検討する。さらに、JCN研修に参加して検討した中堅日本語教師の資質・能力やその育成方法をふまえ、各自の研修企画案を準備・発表する。



## 3. 講師育成プログラム

### 3.2 研修の概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

#### 3.2.1 研修の構成

原則として【講義】と【演習】の組み合わせで構成。総単位数は 31単位（1 単位 45 分）。  
【講義】（5単位）と【演習】（26単位）の内容は以下の通り。

【講義】 中堅研修コースと共通の動画を視聴（5単位）

（本資料13ページ参照，コースガイダンスのみ「講師育成コース」専用のものを視聴）

【演習】 オリエンテーション（2単位）

事前セッション（2単位）

・栗田佳代子氏（東京大学）による「ティーチング・ポートフォリオワークショップ」実施）

メンターセッション（18単位）

- ・メンターとして担当するチームの課題を担当講師と共有し，適切なファシリテーションを検討
- ・講師育成コース受講生が立案した研修企画案に関する意見交換

振り返りセッション（2単位）

- ・中堅研修終了後に，担当チームの研修生の学びの過程を振り返り，中堅日本語教師の資質・能力やその育成方法について検討

研修企画案発表会（2単位） 各自が作成した研修企画案を発表し，意見交換

# 3. 講師育成プログラム

## 3.2.2 実施時期・内容・提出物

- 「講師育成コース」独自のオンライン（同期型）研修として、オリエンテーション、事前セッション、メンターセッション（MS）9回、振り返りセッション、研修企画案発表会を実施。
- 研修前半に、栗田佳代子氏（東京大学）による「ティーチング・ポートフォリオワークショップ」実施、松井孝浩氏（文化庁）による「日本語教育の参照枠」のライブ講義に参加。

（★前年度までの「知識面に関する内容が少ない」という課題を改善）

- 同期型研修終了後には「振り返りシート」を提出し、学びの確認と振り返りを行う。また、開始時・中間時・終了時に自己評価を実施し、学びの過程を可視化する。研修終了時には自らの研修企画案やJCN研修での学びをまとめた修了レポートを作成。
- 研修期間を通じて、LINEWORKSを用いた講師育成コース参加者や担当講師との意見交換（非同期型研修）を実施。

時期	7月	7月末	8月	9月	10月	11月	12月	1月
内容	オリエンテーション 事前セッション MS①・②	講義演習1参加 MS③	講義演習2参加 MS④	講義演習3参加 MS⑤	講義演習4参加 MS⑥	講義演習5参加 MS⑦	成果発表会参加	振り返りセッション 研修企画案発表会 MS⑧・⑨
提出物	振り返りシート 自己評価票	振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート	振り返りシート 自己評価票	振り返りシート		振り返りシート 自己評価票 修了レポート

ティーチング・ポートフォリオのワークショップを実施

「日本語教育の参照枠」のライブ講義に参加

## 3. 講師育成プログラム

### 3.2.3 同期型研修の担当講師

回数	開講日時	時間	科目名	講師	講師補助者
1	7月1日(土) 13:00~ 16:30	4	オリエンテーション・メンターセッション①	1班:北出慶子 2班:義永美央子 3班:金子史朗	1班:中島祥子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:嶋津百代, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:御館久里恵, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
2	7月22日(土) 13:00~ 16:30	4	【中堅研修コース】に係る事前セッション・メンターセッション②	1班:北出慶子 2班:義永美央子 3班:金子史朗	1班:中島祥子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:嶋津百代, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:御館久里恵, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
3	7月29日(土) 13:00~ 16:30	1	メンターセッション③	1班:北出慶子 2班:義永美央子 3班:金子史朗	1班:中島祥子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:嶋津百代, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:御館久里恵, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
4	8月19日(土) 13:00~16:30	1	メンターセッション④	1班:北出慶子 2班:義永美央子 3班:金子史朗	1班:中島祥子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:嶋津百代, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:御館久里恵, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
5	9月16日(土) 13:00~16:30	1	メンターセッション⑤	1班:北出慶子 2班:義永美央子 3班:金子史朗	1班:中島祥子, 安原凜, 星摩美, ツオイ・エカテリーナ 2班:嶋津百代, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:御館久里恵, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
6	10月21日(土) 13:00~16:30	1	メンターセッション⑥	1班:北出慶子 2班:義永美央子 3班:金子史朗	1班:中島祥子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:嶋津百代, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:御館久里恵, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
7	11月18日(土) 13:00~16:30	1	メンターセッション⑦	1班:北出慶子 2班:義永美央子 3班:金子史朗	1班:中島祥子, 安原凜, 星摩美, ツオイ・エカテリーナ 2班:嶋津百代, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:御館久里恵, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
8	1月6日(土) 13:00~16:30	4	振り返りセッション・メンターセッション⑧	1班:北出慶子 2班:義永美央子 3班:金子史朗	1班:中島祥子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:嶋津百代, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:御館久里恵, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠
9	1月20日(土) 13:00~16:30	4	研修企画案発表会・メンターセッション⑨	1班:北出慶子 2班:義永美央子 3班:金子史朗	1班:中島祥子, 安原凜, 星摩美, 柳田直美, ツオイ・エカテリーナ 2班:嶋津百代, 犬飼英男, 吉川達, 加藤林太郎 3班:御館久里恵, 嶋ちはる, 布尾勝一郎, 平山允子, 永田良太, 黒崎誠

## 3. 講師育成プログラム

### 3.2.4 募集と選考

- ・ 募集：2023年5月15日～5月31日（火）23:59(JST)（追加募集：～6月19日（月）23:59(JST)）  
日本語教育学会HPの他，日本語教育関係の学会，研究会MLなどで周知
- ・ 選考：応募資格，および，提出された事前課題によって選考
- ・ 応募資格：
  - ・ 文化審議会国語分科会(2019)<sup>注2</sup>，p.31「表8」に記載されている「日本語教師【中堅】」としての専門性と経験を有する者。
  - ・ 現在，または将来的に中堅日本語教師研修の講師等を務める可能性があり，日本語教育に貢献する意欲がある者。
  - ・ 過去に中堅日本語教師研修を修了した者であることが望ましい。
- ・ 事前課題：以下の4点について，合わせて1,200字程度で考えを述べる。
  - 1) 日本語教師【中堅】に対して，どのような研修を企画したいか
  - 2) 1) の企画を考えるに至った自身の経験や日本語教育の現状を説明
  - 3) 1) の企画を実際に運営・実施するにあたって，今の自分には何が足りないか
  - 4) メンターとして【中堅研修コース】に具体的にどのように関わろうと考えるか，それによって上記3) はどのように学べると考えるか

注2：p.6の注1に同じ。

## 3. 講師育成プログラム

### 3.2.5 受講者・修了者の情報

- ・応募者12名に対して書類選考を実施し、9名を選考。9名の属性は以下の通り。

主な活動領域	留学生（大学教員）3 留学生（日本語学校校長）1 年少者（小学校教諭）1 就労者（高度外国人材即戦力化&定着支援コンサルタント）1 海外（大学教員等）3
居住地	日本国内：6，海外：3
年齢	40代：4，50代：2，60代：3

## 3. 講師育成プログラム

### 3.2.6 修了要件と評価方法

- ・ 修了要件：出席率・課題提出率・課題達成率 いずれも80%以上（9名全員修了）

修了レポート（研修企画案）の評価の観点：下記の項目についてルーブリックを作成

（★前年度までの「評価基準がやや曖昧」という課題を改善）

観点	項目	説明
研修企画力	目的の明確さ	想定する現場の現状を反映させ、研修の目的が設定されているか
	内容や方法の妥当性	研修の目的に対して十分な検討がされ、目的を達成するための適切な方法が選定されているか
	評価・改善方法の適切さ	研修の目的に応じた適切な評価方法がとられているか また、研修の改善方法についての検討がされているか
専門知識	社会的背景・現状の把握	研修立案にあたり、当該研修の対象者らがもつ社会的背景および現状について十分に把握できているか
	ステークホルダーの現状・実態の認識	当該研修の対象者が関わる組織や関係者らの現状や実情を認識できているか
	知識・情報の理解の適切さ	研修立案にあたり、諸々の知識、情報を正しく理解し、踏まえられているか
	先行研究・資料との関連付けの明確さ	先行研究や各種資料が研修企画の立案にどのように関連しているかが明示されているか
JCN研修との関連性	JCN研修と研修企画の関連付けの明確さ	本研修で得た知識、知見、経験等が研修企画の立案にどのように関連しているかが明示されているか
	JCN研修と専門知識の関連付けの明確さ	本研修のどんな活動からどのような専門知識を得られたかが明示されているか

# 3. 講師育成プログラム

## 3.2.7 研修の様子



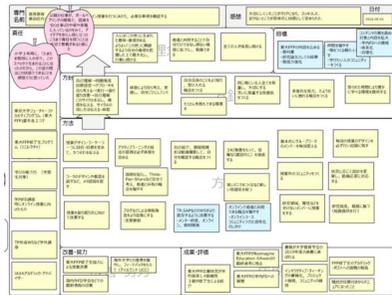
日本語教育学会の  
人材，知財，ネットワークを活かした  
中堅日本語教師のための研修プログラム  
(略称：JCN 研修)  
【講師育成コース】

### 中堅日本語教師研修 自分の教育理念に気づく

東京大学 栗田佳代子



TPチャートの実例 (デジタル版)



スキルも含めて中堅に求められ  
力とは何かを考えさせられた。  
ターは何をすればいいのか、考  
し、最後まで疑問だったところ  
る。一情報提供？協働の学びの  
くり？一研修生から求められる  
とのすり合わせ？一研修生との  
は？  
で協働を「体験」することの重  
を感じた。←共通のキーワード  
つけるなど、人のしていること  
自分のこと」とする体験

2024. 2. 13. (火)

@All みなさま 先日は、修了レポートの提出おつか  
さまでした！ご本務等もおありの中、最後まで完走され  
たこと、本当に素晴らしいと思います。前にどこかのTR  
でご質問があったと思いますが、修了レポートについて  
は、講師に加え、メンターの皆様も相互に閲覧可能で  
す。また、各自のご判断で、修了レポートをご担当チ  
ームの中堅研修生の方などと共有いただくことも差し支え  
ありません。LINEWORKSやPadletも2月末まではオー  
プンしていますので、もし引き続きの意見交換などあ  
れば、どうぞご利用ください。

それと、大変遅くなりましたが、1月の発表会の時に撮  
ったスクリーンショットをGoogleドライブにアップしま  
した。皆さん素敵なお顔です！ぜひご覧ください。

[https://drive.google.com/file/d/1RNUJ8QqCkwHwhrANBBzTiVtjkyk4wue/view?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/file/d/1RNUJ8QqCkwHwhrANBBzTiVtjkyk4wue/view?usp=drive_link)

[https://drive.google.com/file/d/1AzDsWmR5joCG9DkQ-Hpk-X2hEgAMzgdw/view?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/file/d/1AzDsWmR5joCG9DkQ-Hpk-X2hEgAMzgdw/view?usp=drive_link)

- 中堅研修プログラム委... (22)
  - @All みなさま  
今年度の総括及び今後の課題に...
- 2班 (班長・副班長・... (13) 3. 9.
  - 中堅コースのFチームC2F4さんにつ  
きましては、異論ありません...
- 全体 (中堅) (22) 2. 29.
  - @All | 中堅のみなさま  
先日お知らせしましたように、...
- 講師育成 (22) 2. 16.
  - @All  
@義永美央子 さん、修了のご案...
- Eチーム (8) 1. 14.
  - さきほど修了レポートを提出しま  
した！！チームの皆さん、鶴津...
- 講師育成2班 (13) 1. 6.
  - 後半のZoomの情報です。14:4  
5 (日本時間) から、よろしくお...

## 3. 講師育成プログラム

### 3.2.8 参加者が研修終了時に提出した研修企画案（題目一覧）

#### 研修企画案（題目一覧）

学習者ミートアップ「日本語まつり」を通しての実践教師研修の試み

コースデザインの実践—作成から改善まで—

日本で生きる多様な外国人に対する日本語教師養成【中堅】  
—学習者の自己実現を支える日本語教育—

生活者に向けての「読む」授業研修

中堅日本語教師のための「聞くスキル」

つながることを前提としない学ぶ場の提供

教師の自己評価—「協働」という観点から—

社会的存在としての学習者を育てる

小学校派遣前の中堅日本語教師に対する児童観・授業力の育成

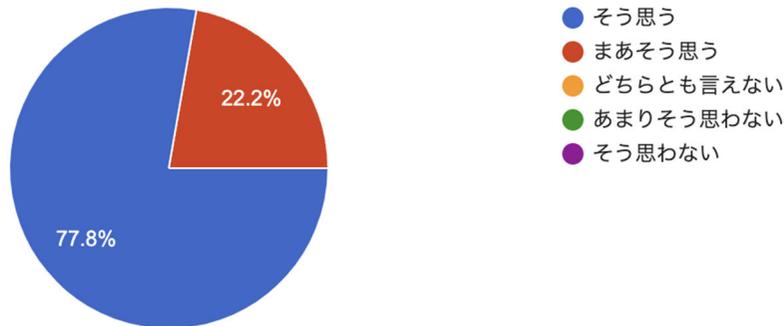
## 3. 講師育成プログラム

### 3.2.9 受講生からの評価

終了時アンケートにおいては、受講者全員が「研修に参加してよかった（そう思う・まあそう思う）」と回答するなど、肯定的な意見が多数見られた。

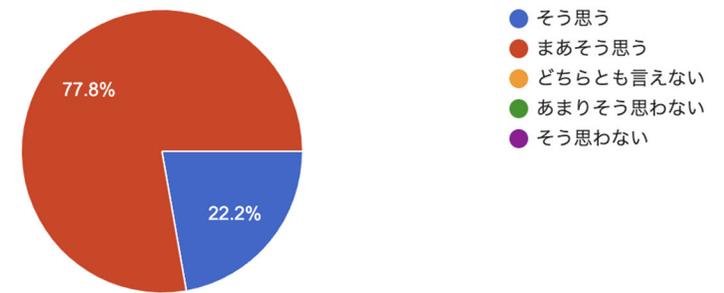
(1) 全体として、この研修に参加してよかったと思いますか。

9件の回答



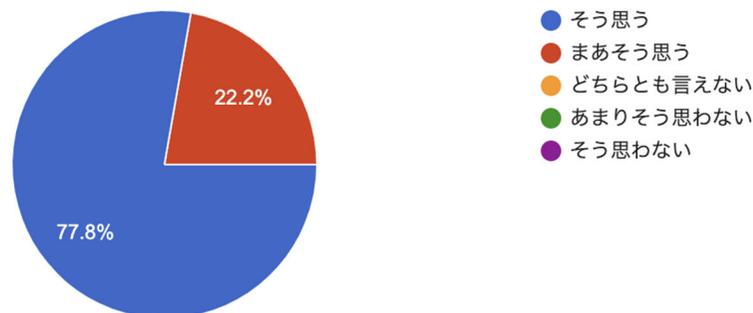
(2) 講義動画の視聴（講義の課題を含む）による「非同期型研修」は、研修の目的を達成する上で効果的だと思いますか。

9件の回答



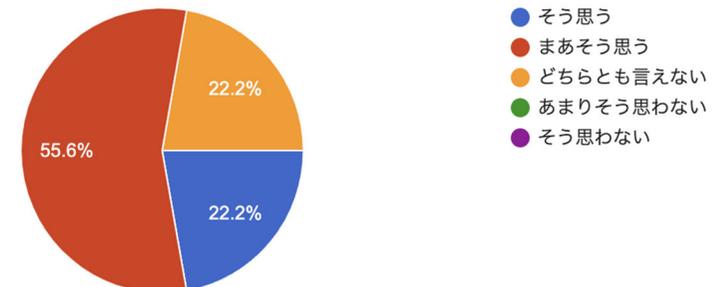
(3) Zoomによる「同期型研修」は、研修の目的を達成する上で効果的だと思いますか。

9件の回答



(4) チャットツールを利用した「非同期型研修」は、上記研修の目的を達成する上で効果的だと思いますか。

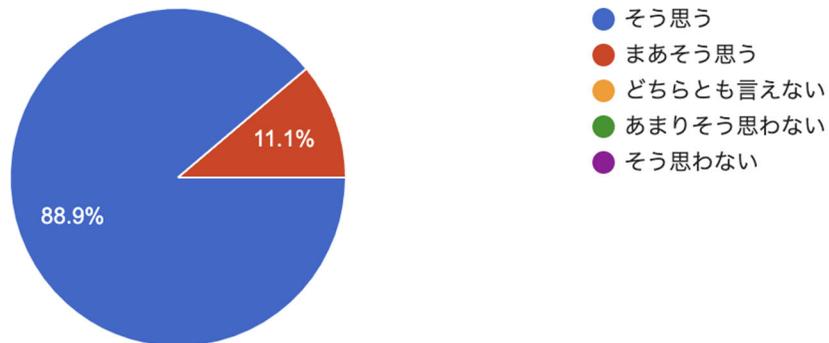
9件の回答



## 3. 講師育成プログラム

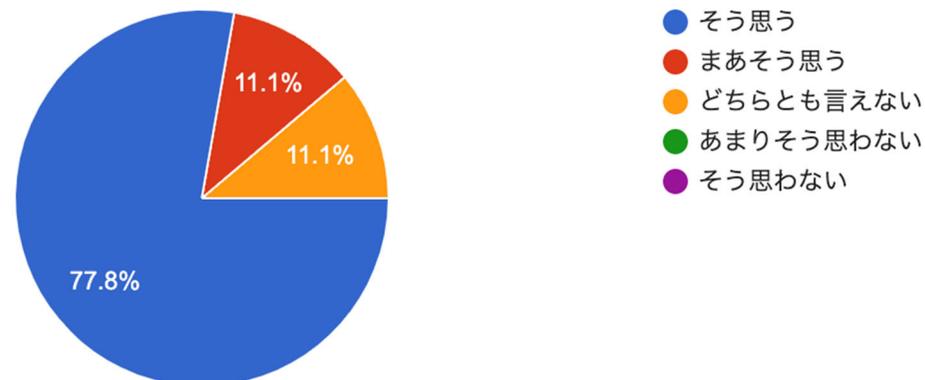
(5) この研修は、いわゆる「座学」ではなく、中堅研修にメンターとして参加するとともに、各自の研修企画案を練り上げていく形で行われます。この形態は研修講師としての資質・能力の開発において効果的だと思いますか。

9件の回答



(7) もし同じ研修の機会があったら、他の日本語教師に勧めたいと思いますか。

9件の回答



## 3. 講師育成プログラム

### 【アンケート自由記述欄からの抜粋】

- この研修を企画してくださった先生方に心から感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。動画も、メンターとしての経験も、講師の先生方からのお言葉も、すべてに大きな学びがありましたが、何にもまして大きく深かったのは、この研修がどのように企画されているかでした。
- 総じて、JCN研修は、最新の日本語教育の動向の情報や研究に対する知見を得ることができ、ネットワーク構築等、有益な研修だった。講師の方や中堅日本語教師の方々との出会いは、今後に向けた貴重なつながりを得た。
- 素晴らしい講師とメンティーに恵まれ、メンターとして多くの学びを得ることが出来ました。生涯の財産です。ありがとうございました。
- 研修企画案の発表会では、さまざまな方々から、コメントを頂くことができ、とても貴重な機会であったと感じております。
- 本研修期間中には事前の期待値をはるかに超えるインプットを得ることができたと感じています。これは、チームの受講者や講師、同班のメンターとの対話が活発であったこと、またこれらの人たちとのコミュニケーションに困難さを感じなかったこと、の二点が大きいと思います。やり取りの中の他者の発言自体がインプットになったり、他者の発言や反応が思考の起点や分岐点になったり、そこから文献に当たったりと、とても充実した時間を過ごすことができました。学びにお付き合いいただいた方、研修を運営してくださった方、ありがとうございました。
- この研修は、今の私が何をすべきか、何を勉強しなければならないかを知るために非常に有益でした。今後の教師としての在り方も考えました。また、現在の所属校に必要なかつ実施可能な研修計画を最後に作成できたことは何よりの収穫でした。

## 4. 基盤整備

基盤整備については、1.2で示した基盤整備委員会を設置し、4回（6,10,12月および2月）の協議を経て、以下のように報告する。

### (1) 修了生の成果発表の場となるプラットフォームの構築（目的④）

- ・ 基盤整備委員会でJCN専用のHPを作成する（予算申請済）。
- ・ 情報掲載の目的、①説明責任、②人材紹介、③研修広報とする。
  - ①説明責任：募集要項、実施報告など
  - ②人材紹介：修了生に関する情報を任意で掲載する。掲載情報は、修了生氏名、所属、活動対象地域、修了レポートタイトル、リンク先情報など
  - ③研修広報：修了生による研修の感想、動画教材の紹介と一部公開
- ・ HPへの掲載情報は、情報収集用のGoogle formsを作成し、毎年度修了時に両コース修了生を対象に収集する。
- ・ HPは、日本語教育学会 HP内に設置する（来年度設置予定）。

## 4. 基盤整備

### (2) 修了生が研修修了後も自律的持続的に活動を続けていくためのネットワークの構築（目的⑤）

- ・ JCN事務局がSlackを立ち上げ，事務局から研修修了者のみを対象としてSlackへの参加を案内する。
- ・ 修了生の自主的なネットワークとするが，年度ごとに運営委員会から「ネットワーク担当者」を選出し，情報の選定と発信，チャンネル整備などの運営作業を行う。メールアドレスの登録などの事務作業は，事務局が行う。
- ・ Slackは，無料版を使用する。
- ・ ネットワークの名称は，JCNの研修から次のステップという意味を込めて「JCNext」とする。
- ・ 来年度運用開始予定

## 5. 事業評価

事業評価については、1.2で示した外部有識者5名を含む事業評価委員会を組織し、2回（8月および2月）開催した。

委員長 小林ミナ  
副委員長 小河原義朗

委員（外部有識者、五十音順）

阿部真由美（早稲田大学，教育学）

石黒 広昭（立教大学，教育学）

栗田 佳代子（東京大学，高等教育）

戸田 佐和（公益社団法人国際日本語普及協会，日本語教育）

野田 尚史（日本大学，日本語教育）

## 5. 事業評価

第2回事業評価委員会（2024年2月19日開催）における外部有識者からの質問（Q）及びコメント（C）と運営側から回答（A）

Q：チーム間の交流はなかったのか。

A：講師育成については、中間で1回、修了時に1回、班を越えたが、全員が全員と交流できたわけではない。中堅（1班）については、4回目に講義の部分で他のチームと交流を行った。2班もチーム内でシャッフルあり。3班は、シャッフルはしなかったが、4回と5回目のスクーリング後に自主的に集まってチームを越えて交流会を行った。

Q：（チームのシャッフルについて追加質問）他のチームや班のことが気になると思うが、それが見られる機会はあったのか。

A：提出物については他の受講生の提出物を見られるようにしてあるので、他の受講生の状況はわかるようになっている。

Q：LINE WORKSについて、チャットのそもそもの目的は何か。書き込みをしない人がいたということだったか、いざという時の連絡手段か。

A：中堅は、非同期型研修のために使用した。ただ、開始時はなかなか議論が活発にならないこともあった。

## 5. 事業評価

C：講師育成のメンタリングに問題が見られる人について、デリケートな問題であるが、講師育成において何が評価されるか明示しておく。メンタリング態度、メンタリングスキルについても評価することを事前に知らせておく。終了時の評価後、5分、10分でも個別カウンセリングの時間を設けておく。そこでその評価の理由を説明する。

A：今後何かの形で取り入れたい。カウンセリングをするのはどういう人か。

C：評価者と第三者（例えば違うチームの講師など。ただ担当講師と異なる立場として）。長くないように、短く行うのがポイント。5～10分程度がよい。

Q：今後の展望について、学会から見ても社会的にも本研修は意味があるが、今受けている文化庁からの助成がなくなったとき、継続できるか。それがなくなっても継続できる見込みはあるか。

A：JCNは講義動画を公開するだけでは十分ではない。具体的な方法については、現在検討中である。助成金がなくなった場合の受講費を試算すると、現実的ではない金額となる。

Q：今後の委員の交代についてはどうなっているか。任期があるのか。

A：文化庁との契約は単年度だが、同じメンバーが継続することは好ましくないと考えている。学会の他委員会と同様、4年を限度として交替するよう計画している。普及事業の初年度（2021年度）から関わっている委員は来年度で退任となる。毎年6人程度が入れ替わるような計画であり、委員が変わっても安定した運営ができる体制が今後の課題である。

## 5. 事業評価

以下は、外部有識者からのコメント

C:全体的に順調に進んでいるように見える。挙げられた課題も解決可能だという印象を受けた。

C:事業の持続可能性が心配だが、毎年50名以上の中堅が巣立っていくのは評価できる。

C:生涯学び続ける態度は育まれているのではないか。

C:電子ツールに頼っているが、有料版と無料版など有料／無料などによって仕様が異なる。それぞれについて仕様ごとの総括が必要である。

C:チャットなど電子上で交流する難しさがある。

C:開始時にゴールが見えづらいことについて、修論や卒論を書くことについても同じだが、開始時にゴールが見えづらいのは当然。2つのゴールを設定する。一つは、タスクに依存したゴール。タスクが進むと変わるので、事前表示はできない。2つ目は、タスクへの取り組みを通してメタ的に原理的に学ばれるもの（ゴール）。1つめのゴールを俯瞰的に見たものでもある。前者は研修が進めば課題も変化していくので事前に提示することはできないが、後者は事前の提示が可能である。

C:委員から課題提示があったメンタリングについて、募集要項に含まれているか。もし含まれていないのなら研修の内容として「中堅研修に参加し、メンタリングについても学ぶ」のような文を加えておくのはどうか？

## 5. 事業評価

C:アンケート結果について、クロス集計をして項目間の関係性についてより詳しく分析してはどうか。

C:中堅、講師育成ともに、研修参加者は、外の人とつながるが、自分のコミュニティとの乖離が生じるのではないかと。研修参加者はレベルアップしていくが、他の同僚はそうではない。日本語教育全体のレベルアップを考えたときに、研修を受けた人とそうでない人の乖離をどう解消するか。報告会や報告書の一部公開することができないか。たとえば「成果発表会にゲストを1人連れてきて良い」といったものがあるのではないかと。ゲストに成果を見てもらうことにより、研修の内容やそれによる受講生の変容などをわかってもらう機会になる可能性がある。

C:研修の成果を公開できればよい。過去の成果物など。

C:過去の成果物について、1~2例だけだと見本のようになりそれに倣ってしまうので、了解を得られた全員の分をアーカイブ化してはどうか。

C:基盤整備委員会について、管理運営側からの情報を置く場所になってしまい、自主的な活動な場とならない恐れもある。そうならないように、自主的な活動な場、交流を促す「サロンの場」を作っておく必要がある。

C:基盤整備も進むということで、一貫した流れができる。

C:学会のウェブサイトを見てもJCN研修のことが簡単に見つからない。もっと簡単に見られるように学会に訴えていったほうがいいのではないかと。

## 6. 成果と課題

### 6.1. 成果

- ・受講生が、機関を越えて繋がることのできる場を創出できたこと。
- ・受講生が、日本語教育の現状、将来に関する理解を深められたこと。
- ・受講生が、特定の機関、現場を越えた俯瞰的な視野を獲得できたこと。
- ・知識伝達を主軸としない、「自らの現場の課題を持ち寄る」という課題解決型の研修プログラムをデザインし、実施できたこと。
  - ・「中堅研修プログラム」において、文化庁専門官によるライブ講義「日本語教育の参照枠について」を実施できたこと。
  - ・「講師育成プログラム」において、外部講師によるライブ講義「研修のデザインとメンタリング」を実施できたこと。
  - ・修了生のネットワーク形成、および、成果発表のためのプラットフォームの構築準備を整えられたこと。

### 6.2. 課題

- ・中堅研修および講師育成プログラムにおいては、「成績評価及び修了判定の精緻化」があげられる。
- ・基盤整備においては、「JCN専用のウェブサイトおよび修了生ネットワークコミュニティの運用開始」があげられる。
- ・全体の運営としては、「委員が変わっても安定した運営ができる体制作り」があげられる。